

ハッピー・トリマー[®] VOL.15

2005
SEPTEMBER
(奇数月1日発売)

巻頭フォト

ミミック スタイル集

第2特集

ペットと考える防災

好評連載

100万人のペット遺伝学講座
ペットのヘア・ケア専科
トリミング・ツール徹底比較
ほか



スタンダード・スタイル・
コレクション

パピヨン



ペット・カット・セレクション

マルチーズの リープリング・ ホーゼン・スタイル

テリアのカジュアル・トリミング
レークランド・テリア

第1特集

秋はショーの季節

ドッグ・ショーを10倍楽しく!

10倍楽しむ!

いよいよドッグ・ショー・シーズン本番です。

「ショーに行ったことはあるけれど、いつも何を見たらいいのかわからなくて……」というあなた！
ドッグ・ショーは、犬の勉強にもぴったりの見どころ満載のイベントです。

観戦のポイントをしっかり押さえて、思い切りショーを楽しみましょう。

現在、ドッグ・ショーは多くの方に純粋犬種のすばらしさを知ってもらうため、また純粋犬種の保護、育成、発展を目的に、全国各地で年間約300回ほど行われています。毎年4月に開催されている、世界的にも有名なFCIアジアインターナショナルドッグショーや、14のブロッグが主催しているFCIインターナショナルドッグショーといったビッグ・ショーを始め、各犬種部会が主催の犬種部会展などのスペシャリティー・ショー、地域の連合会が主催しているクラブ連合展、全国各クラブ主催の単犬種展、犬種群クラブ展、全犬種クラブ展など大小さまざまなショーが、土・日曜日を中心に開催されています。ドッグ・ショーは、コンフォ

イギリスのニューキャッスルで行われたものが公式のショーの始まりとされています。わが国では1950年に社団法人・全日本警備犬協会（のちのジャパンケネルクラブ）が東京・上野公園で本部展を開催したのを始まりに、55年の歴史があります。

ドッグ・ショーとは？

ムダにしない ドッグ・ショー 観戦

アートグルーミングスクール学長
深町政彦



ドッグ・ショーを見ている人も思っています。実際に犬をショーへ出展させるのがシステムを覚えるいちばん早い手段ですが、「なかなかそこまで

ショーのシステム

1メーション・ショーといって犬の形態美を競う展覧会です。各犬種の理想像を定めたスタンダードをもとに、タイプ、クオリティー、サウンドネス、バランス、コンディション、キャラクターの6つのポイントで審査されます。私たちはブリーダーは、スタンダードにより近い犬たちを作出するため日夜努力しています。いわばドッグ・ショーは、ブリーダーの作品展のようなものです。

図1

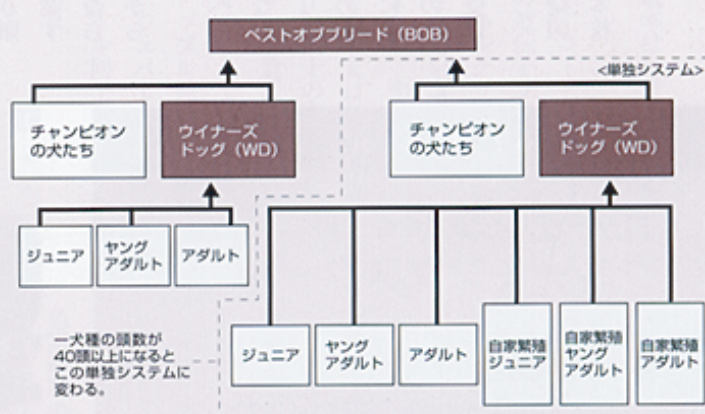
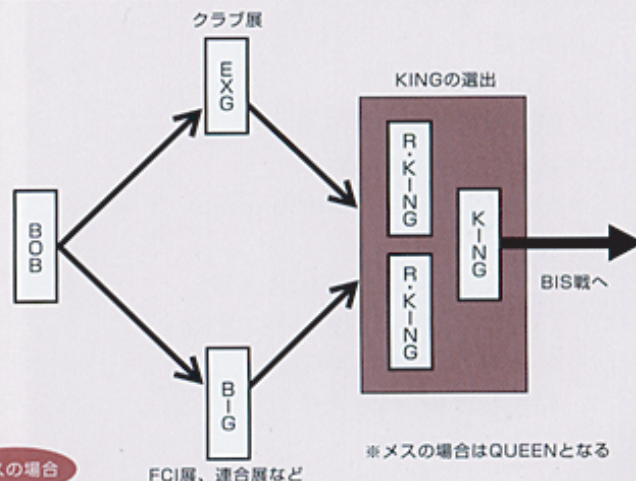


図2



は……」という人が多いかと思いますが、まずはシステムについてお話します。

すべてのドッグ・ショーは、ベスト・イン・ショー (BIS) 戦まではオス、メス分かれてのトリーナメント方式になっています。出展犬は犬種、年齢ごとにベビー、パピー、ジュニア、ヤングアダルト、アダルト、チャンピオンとクラス区分されます。一大種で出展頭数が40頭を越える犬種に関しては、単独システムが採用されます。単独システムが成立された犬種は、先述のクラスのほかに各クラスごとに自家繁殖犬（自分で繁殖し、一度も名義変更をしていない犬）クラスが追加され、全部で11クラスになります。そしてベビー・マッチ・ショー、パピー・マッチ・ショー、チャンピオンシップ・ショーと各クラスに分かれて審査され、性別・クラス別にブリード審査を行い、各クラス1席犬が選ば

秋はショーの季節

ドッグ・ショーを

れます。次に各クラス1席犬の中から、オス犬はウイナース・ドッグ(WD)、メス犬はウイナース・ビッチ(WB)が選出されます。WDとWBはチャンピオンクラスの犬たちと審査され、各犬種の代表犬となるベスト・オブ・ブリード(BOB)が決定されます。(右ページ図1)

BOBの犬たちは、さらにそのなかからベビ1、パピークラスは8頭、チャンピオンシップでは13頭がエクセレント・グループ(EXG)として選出されます。これがFCI展やクラブ連合展などでは、BOBはグループ制で審査されます。FCIは10グループ制、クラブ連合展では日本犬グループが加わり11グループ制に分けられ、各グループの1席犬はベストイングループ(BIG)となってその先へと進みます。

図2

そしていよいよ最終審査です。オスはリザーブ・キング2頭、キング1頭、メスはリザーブ・クイーン2頭、クイーン1頭が選ばれ、最高位のベスト・イン・ショーが決定します。

実践編

出陳目録を活用しよう

犬種ごとの審査は午前9時より開始されるので、見たい犬種の審査は何時にどのリングで行われるのか、当日出陳目録で調べておくといでしょう。出陳目録は出陳していない人でも受付で購入でき、名犬の広告や参考犬、審査員の紹介、各リングのタイムスケジュール、当日出陳されている犬たちの犬種別、クラス別の紹介などが載っています。自分のお目当ての犬種については、どの犬がクラス1席で、WD・WBはどの犬で、BOBはどの犬だったかなどを

付されます。

FCIインターナショナル ビューティーチャンピオン

FCI展で4枚のキャシブ(CACIB)を取得することが条件です。4枚のCACIBは異なった審査員の発行したものでなければなりません。CACIBは、FCI展でBOB犬に与えられます。

そのほかにもいろいろな決まりごとがありますが、実際にドッグ・ショーに参加してCC、M.CC、CACIBを取得し、チャンピオンやインターチャンピオンを完成させないといわかりにくいこともたくさんあります。



チャンピオン犬になるには

「チャンピオン犬」とよく聞きますが、それではいったいどのようにすればなれるのでしょうか。「チャンピオン」、「FCIインターナショナルビューティーチャンピオン」についてそれぞれお話しします。

チャンピオン

ジュニアクラス以上のチャンピオンシップ・ショーで4枚のチャンピオン・チャレンジ・サーティフィケート(CC)を取得していることと、そのうちの1枚以上がメジャー・チャンピオン・チャレンジ・サーティフィケート(M.CC)であることが条件です。

CCは399頭以下のクラブ展か49頭以下の単犬種展でWD・WB審査まで3頭以上の出陳がある場合、WD・WB以上に交付されます。4枚のCCは、2名以上の異なる審査員が発行したものでなければなりません。また、訓練試験資格の取得も必要です。50頭以上の単犬種展の場合は、クラスに3頭以上の出陳犬があるときクラス1席犬(EXG)以上に交付されます。

M.CCは、出陳犬数400頭以上のクラブ展、連合展、FCI展でWD・WB審査までに3頭以上の出陳がある場合、WD・WB以上に交付されます。また、単独システムが成立している犬種、部会展では、クラスに3頭以上の出陳犬がある場合にクラス1席犬以上に交

実践編

ハンドラーをチェック!

出陳目録にチェックしておいたほうがよいと思います。そうすることによって何度かドッグ・ショーを見学しているうちに、どこの犬舎の犬が、もともとその犬種の理想像に近い犬を繁殖しているかがわかります。自分で犬を持つときや、ドッグ・ショーに参加してみたいと思ったときに、とても参考になってくると思います。

日本にはすばらしいハンドラーの方々がたくさんいますので、ぜひドッグ・ショーでチェックしてみてください。ハンドラーの服装には決まりはありませんが、一般的に男性はネクタイ着用、女性は清潔感のある動きやすい服装でハンドリングします。犬と同系の色や、犬より目立ってしまう服装は避けるべきでしょう。また、犬種によってハンドリングの仕方が多少違っているの、それもチェックしてみよう。

別レベル見学ショー 審査を楽しむ

JKC公認オールブリード・ジャッジ
高橋宏美



どんなことであっても、それをこだわりを持って感じる人とあまりむずかしく考えない人とは、同じ経験をしていても何年かすると大きな違いとなって結果が出てしまいます。

何かひとつの道を選んだあなた！ 天才などというものはなかなかいるものではありません。スペシャリストを目指すのであれば、何事においても楽な道など選ばず、いかにそのことに興味とこだわりを持ってたくさんの時間を費やすかにかかっています。それによって導かれる結果は明白です。

初級編 まずはここに注目！

ドッグ・ショーに行っても、最初は何が何だかわからないうちに帰ってきたという方も多いでしょう。それは①犬種の代表であるBOBを決め、②EXGから③最終審査を行ってKING、QUEENを選出し、④全犬種最優秀犬であるBISを選ぶまでのステップがあることを理解せずに会場に来てしまうからで、これではブードルを見た、マルチーズを見たというふうに、単に「多くの犬種の見学」となってしまう。

まいます。

現在、JKCの審査は一審制という方法で行われています。これは①個体審査と②歩様審査を組み合わせて、一度に審査を行う方法です。

① 個体審査

歯の噛み合わせ、掌丸などのチェックや頭部表現、骨格構成、体質、性格などを短時間で鑑賞することです。

② 歩様審査

骨格構成の確認として、その犬がどのような動きをするかなどを見ることです。

会場で一日中見学していればなんとかショーの様子はわかると思いますが、結構長時間なので飽きてしまうかも？ です。でもまだショー見学に慣れないうちは、各犬種の代表犬が一斉にリングに並んで最終審査が始まる前を目安に、午前11時ごろ会場に来るのがお勧めです。そうすれば、各犬種の当日の勝者をすべて見る事ができるでしょう。最初のうちは短時間ビックアップで。

中級編 好きな犬種をもっと理解しよう

BISは最も高い評価であり、すべての出陳者の最終目標です。しかし犬種が異なる戦いで、大きなニューファンドランドから小さなチワワまでを比較するため、ある意味結果が見えにくいものかと思えます。日本のショーの現状では、残念ながら数犬種をのぞいては「犬種」このエントリ―頭数が少ないため、ともすればBOBの価値を軽視しがちです。しかし、犬種の勝者



であるBOBになるのはとても大切なことでしょう。観戦する人もその犬種の良し悪しがわかってくればくるほど、同一犬種で行われるBOB戦が楽しくなるはず。そんな観点からすれば、単独展はその犬種の最良の勉強場です。審査開始前は、ハンドラーや出陳者は各パドックで手入れに余念がありません。名犬やその手入れ法など、めったに見られないものが近くで見られる最大のチャンスです。全犬種展、単独展いずれも慣れてきたら、開始1、2時間前のパドックは要チェックです。その際は、自らの興味のある犬種から見るのが、より早い理解につながるでしょう。

プロ編 ジャッジとしては！

勝者とは理想像により近い犬であるべきでしょう。審査は1頭につき1分半〜2分くらいで進められますが、審査員はその短時間で決定を下さなければなりません。長年に渡って多くの優秀な犬と関わり、経験を積んだ審査員が確実な決定を下すのは、犬種のスタンダードを正しく維持するためにも大切なことのひとつです。



現在JKCのショーでの審査員は、ブリーダー、元ハンドラー、ペット・ショップのオーナーなどいろいろです。人によって価値観が違いうように、犬へのこだわりなども当然すべてが同じというわけではありません。また、席次も必ずしも同じではありません。

リング内では、ハンドラーと審査員は余計な言葉を交わしません。そこで手法によって何をしたいのか、何を見ようとしているのかをハンドラーだけでなくギャラリーにも伝えていくのです。審査に注目していれば、審査員が手で何かをハンドラーに伝えている場面を見ることがあるかと思えます。これを見逃さないようにすると、審査が理解しやすくなります。

審査員が自分の考えや理想像をきちっと持つて順位を付ければ、審査はより理解されるようになるでしょう。私が審査でつねに大切にしている点は理想像、バランス、体質などいろいろですが、どんなに素晴らしいショー・ドッグでも、健康でなければその価値は半減してしまうかと思えます。また、良い性格も忘れてはならない大切な点でしょう。

単犬種展・クラブ展に行こう

アートグループ・ミギス・スクール学長
深町政彦



単犬種展とクラブ展

クラブ単犬種展は、犬種によっても違いますが約40〜80頭の犬たちが出陳されています。また犬種部会展には、約100〜180頭の犬たちが出陳されています。

単犬種展はスペシャリティー・ショーなので、その犬種のスペシャリストの方々が集まるドッグ・ショーです。年に数回行われるだけですので、見学に行ける距離でしたらぜひ観戦してみてください。自分の勉強したい犬種や、今現在勉強している犬種を観察するにはもってこいのドッグ・ショーだと思います。

全犬種クラブ展は、さまざまな犬種の犬たちが約250〜700頭も出陳されています。出陳頭数が500頭を超えるクラブ展では単独システムを採用している犬種も多く、ビッグ・ショー並みのイベントになり、見ごたえも十分にありまう。

また、オーナー・ハンドラーやちびっ子ハンドラーなど、まだ始めたばかりのハンドラーさんたちも活躍しています。みなさんもハンドラー・デビューするのであれば、入りや

すいドッグ・ショーなのではないと思います。

好みの犬を見つけよう

単犬種展の参加者はみなが同一犬種の専門家であっても、やはりそれぞれに違いがあります。たとえば同じカット・スタイルを作っている、犬舎によって多少形が違っていたりします。たくさんさんの犬舎の人たちが来場します。この犬舎の人とあの犬舎の人では、この部分のカットが違う、「この犬舎のカットが好き」などと、自分なりにカットの評価をしてみるのも楽しいと思います。

また、それぞれの犬舎で追い求めているものが違うので当然かもしれません、犬たちの顔やスタイルなども犬舎それぞれです。ひとつの犬舎のなかにしても、同じようなタイプの犬はそろっていますが、やはり人間と一緒に暮らしたく同じ犬はいません。自分なりに、好みの犬を探してみるのもよいと思います。



出陳者のみなさんに聞きました

ここは守って! 観戦のマナー

● 会場では愛犬のリードを短く持ち、出陳犬に近づけないようにしてください。ショー・ドッグといえどもストレスがかかってしまいますし、ご自分の犬も興奮したり怖がってしまうかもしれません。サークルやケージに入っているのも同様です。互いのためにも、犬同士を近づけるのはやめたほうがいいと思います。

● バドック内でトリミング・テーブルに犬を乗せているときは、出陳前のセット・アップをしています。ハンドラーは準備に集中しているので、むやみに話しかけないでほしいです。

● 審査をしているときは、ストロボを使っての撮影はやめてほしいです。フラッシュで出陳犬が集中できなくなってしまう。

● ショーではタイム・スケジュールが細かく決められています。

通路はハンドラーがリングへ移動するための通り道でもあるので、通路はかならず開けておいてください。

● 出陳を待っている犬やサークル内にいる犬に、むやみにさわらないでください。さわりたいときはひと声かけてください。

● 小さなお子さま連れの方は、お子さまから目を離さないようにしてほしいです。小さいうちから犬やショーを楽しんでもらうのはとてもうれしいのですが、子どもはどうしても犬にさわりたいがってしまいます。安全の問題もあるので、できるだけ注意してください。

● リングの入口や出口周辺は、ハンドラーが出番待ちやセッティングをする場所でもあります。見やすいからといって陣取らないようにしてください。

パピーは要チェック!

単犬種展やクラブ展ではビッグ・ショーと違い、ベビー・マッチ・ショーやパピー・マッチ・ショーも併催していますので、これから活躍する子犬たちを見ることができるようになるのも注

ブリード審査を見て、「1番の犬より2番、3番の犬のほうが私の好きなタイプだ」と自分が審査員になったつもりでジャッジしたりするのも、楽しみ方のひとつだと思います。自分の好きなタイプの犬というのは、たくさんさんのドッグ・ショーへ行きたくさんの犬を見てふれて、ようやくわかるものではあるのですが。

目ポイントのひとつです。

ベビー、パピーで自分のお気に入りの犬をチェックしておけば、その犬が成長とともにどう変化していくのかがわかると思います。成犬になるとともにすばらしくなっている犬もいれば、ベビー、パピーのときより輝けなくなってしまう犬もいます。犬のスタンダードがわかるようになってくると、非常に興味深く観戦できると思います。

ショーはいろいろありますが、ひとつ言えることは、250頭の小規模のドッグ・ショーでも3000頭の大規模のドッグ・ショーでも、私たち出陳者は手を抜くことなく、本気でドッグ・ショーを楽しんでいるということです。